

令和5年度 和泉葛城山ブナ林事業計画

1	計画の概要	1
2	コアゾーンにおける調査	1
3	コアゾーン及びバッファゾーンで実施する調査・保全管理	1
4	バッファゾーン等における調査及び保護・増殖活動	2
5	管理体制の確立・適正な利活用の誘導	2

令和5年4月

公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会

1 計画の概要

令和 5（2023）年度は、令和 2（2020）年度に策定した「和泉葛城山ブナ林 10 ヶ年計画」に基づき、コアゾーン、バッファゾーンで各種調査を実施するとともに、国の天然記念物指定から 100 周年を迎え、シンポジウム、記念植樹、ハイキングなどを開催し、ブナ林を紹介するリーフレットを作成する。

2 コアゾーンにおける調査

（1）天然下種更新モニタリング

令和 4 年（2022）年の結実が少なかったことから、今年度に発芽する可能性は低いですが、令和 2（2020）年の結実種子による実生が生育している可能性があるため、確認に努め、確認された場合はその生育状況をモニタリングする。

（2）花芽・結実調査

種子生産の豊凶周期を把握するため、3 月～4 月にかけて花芽調査、11 月に結実調査（殻斗調査）を主に目視観察により実施する。

（3）花がら・種子調査

開花状況、種子の生産、種子病原菌の状況、散布の状況および種子健全度の経年変化を把握するため、トラップ布による花がら（落下した雄花序）及び種子の採取調査を行う。

調査地点は過年度と同じくコアゾーン 4 プロットとし、各プロットにつきトラップを 5 基設置する。

健全な種子が採取できた場合は苗を作るなど有効活用を図る。

3 コアゾーン及びバッファゾーンで実施する調査・保全管理

（1）生育環境調査

ブナ林の南限に近いとされる和泉葛城山のブナ林では、夏場の気温上昇がブナの生態に影響を与える可能性が考えられるため、過年度からの通年測定を継続して、長期間の森林生育環境データを取得し、分析する。

調査地点は令和 4（2022）年度と同じ、コアゾーン 2 カ所、バッファゾーン 7 カ所とする。

（2）哺乳類モニタリング

気象観測器の支持柱等に自動撮影カメラを設置し、哺乳類のモニタリング調査を行う。

調査地点は令和 4（2022）年度と同じ、コアゾーン 2 カ所、バッファゾーン 7 カ所とする。

（3）ナラ枯れ対応

令和 4（2022）年度はバッファゾーンの歩道沿いを中心に、コナラ、ウバメガシにナラ枯れ予防の薬剤注入を 65 本に実施したが 5 本の枯死木が確認された。

これらの枯死木から成虫が脱出し被害が広がることを抑制するため、黒ビニールシート

巻きを行う。5月中旬に施工して、11月頃撤去する。

4 バッファゾーン等における調査及び保護・増殖活動

(1) 記念植樹

バッファゾーンに播種から育てた実生が密生する場所があり、そのうち密生する3本のブナ(樹高約1.5~2m)を移植適期の10月から2月の間に、山頂付近へ移植する。国天然記念物指定100周年記念植樹とする。

(2) ブナ若木の育成

バッファゾーン植栽地において、植栽したブナの生育環境を維持・改善するため、枝払い、刈払い、清掃などを行う。

(3) 森林保全整備

立木の健全な育成による森林被害の未然防止、林内照度の上昇による公益的機能の増進、ブナとの混交林への移行を目的に、森林保全整備を行う。

(4) 植栽ブナ、天然ブナ全数調査に向けた準備

植栽ブナ、天然ブナの全数調査の実施に向け、個体番号表示の保全を実施する。過去の標識番号が確認できない場合は、初期値として胸高直径の計測を行う。

また、ブナ位置図のデータ更新を行う。

(5) ドローン活用調査

大阪公立大学大学院 生命環境科学研究科 緑地環境科学専攻 中村彰宏准教授が行う調査研究の円滑な実施に向け支援を行う。

- ・ブナ開花調査(継続)
- ・ナラ枯れ調査(新規)

2022年の解析から、おおよそのナラ枯れ被害状況が明らかになったが、NDVI画像は枯死木の抽出には極めて有効だが、樹種判別には低解像度のために十分でなかった。そこで、今年度は解像度の高いドローンを用いて夏期のナラ枯れ発生状況調査をコアゾーン周辺で重点的に行う。また、過去のドローン画像を再確認し、できるだけ古い時期のナラ枯れ発生状況を明らかにし、ナラ枯れ被害の分布拡大状況の解明を目指す。

5 管理体制の確立・適正な利活用の誘導

(1) 保護増殖検討委員会とワーキンググループ、関係者協議

令和5(2023)年度は、1回の保護増殖検討委員会と、各種調査及び保護・増殖活動の進捗および成果の確認を行うため、2回程度のワーキンググループ会議の開催を予定する。

(2) シンポジウムの開催

国天然記念物指定100周年記念にあたり、シンポジウムを開催する。

(3) リーフレット作成

和泉葛城山ブナ林を紹介するリーフレットを作成する。
内容は、ブナ及びブナ林の解説、保護増殖活動のあゆみ、登山マップ等。

(4) ハイキングの開催

前年度のハイキングが雨天中止となったため、国天然記念物指定 100 周年記念もあわせて、市民を対象としたハイキングを開催する。

(5) 利用ルールの検討と普及啓発

①巡回の実施

地元町会・自治会と連携し、3人の巡視員により、毎月1回の巡回を実施する。

②看板の整備

令和4(2022)年度に調査できなかった蕎原道、牛滝道において、看板、案内板、解説板等の現況調査を実施し、調査結果を整理して基本方針案(新設、更新、撤去の分類等)の検討を行う。

以上